

# いわき農林ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)



発行 平成22年12月17日

## 「いわき地方農産物直売所等合同フェア」を開催

11月3日(水)、いわき市小名浜の小名浜さんかく倉庫「小名浜潮目交流館」において、「いわき地方農産物直売所等合同フェア」を開催しました。

この合同フェアは、いわき農林事務所及びいわき地方振興局の主催により、いわき地域農産物のPRを行い、地産地消の拡大を図ることを目的として、農産物直売所10店、地産地消推進店1店、農産物加工所1店の合わせて12店舗が共同出店し、農林水産物や、飲食物、加工品などの販売を行いました。



(いわき地方農産物直売所等合同フェア)

当日は、天候にも恵まれ、屋内、屋外とも多くの来場者がありました。来場者は販売された新鮮な野菜や各店オリジナルの加工品、試食など多種多様な商品をそれぞれ品定めしながら、お気に入りの商品を買って求めていました。

また、会場ではスタンプラリーの抽選会も実施され、当選者には、「おいしいト



(スタンプラリー抽選会)

マト」が景品として渡され、嬉しそうに受け取っていました。フェア終了前に、多くの店舗で商品が売り切れとなりましたが、消費者は、安全・安心ないわき地方の農林水産物の地産地消について理解を深めていました。



## 「ステップアップ講座経営セミナー」を開催

11月9日(火)、11日(木)、18日(木)、25日(木)、JAいわき市において、ステップアップ講座経営セミナーを開催しました。

このセミナーは、確かな経営感覚を身につけた地域農業の担い手になっていただくため、認定農業者や女性・青年農業者、集落営農組織等の方々を対象として11月から12月までの期間、全7回にわたり開催を計画しており、この内11月は4回行い、延べ68名が参加しました。

11月のセミナー内容は、第1、2回が「複式簿記の基礎」、第3、4回が「資金管理・資金繰り」、「財務諸表分析の基本」、「確定申告・税制改正の内容」と題した講義のほか演習も取り入れて実施しました。

短い時間で、しかも内容が多岐にわたりましたが、参加者から多くの質問があり、有意義なセミナーとなりました。



(第2回セミナー(複式簿記の基礎))

参加者からは、「複式簿記で今まで不明なところが分かった。」、「資金管理の大切

さ、資金繰りの重要性が分かった。」などの意見が聞かれました。



(第3回講習会(資金管理))

## 田んぼの学校「脱穀」、「学びの収穫祭」、「収穫祭・発表会」を実施

11月9日(火)、いわき市立夏井小学校学習田において、「田んぼの学校」10回目の活動として、9月に全校児童で刈り取った稲を脱穀しました。

脱穀作業は、コンバインを使って稲刈りと同時に行うのが一般的ですが、今回の活動では、千歯(せんば)こきや足踏み脱穀機、唐箕(とうみ)などの昔ながらの農具を使った脱穀を行いました。

初めて見る農具に、児童たちは興味津々の様子で、慣れない手つきでしたが熱心に作業を行っていました。



(千歯こきによる脱穀作業)

脱穀後、粳すり機を使って玄米にし、148kgの収穫となりました。

11月19日(金)、猪苗代町体験交流館において、「水土里(みどり)の森と農業用水の学習会 in 猪苗代」と「田んぼの学校『学びの収穫祭』」が開催されました。

「水土里の森と農業用水の学習会 in 猪

苗代」では、県内各地の「田んぼの学校」活動を実施する児童たちが、昭和の森で森林の多面的機能の学習、猪苗代町体験交流館「学びいな」で安積疎水についての学習会が行われ、児童たちは、少し難しい内容にも一生懸命に耳を傾けていました。



(昭和の森で森林の多面的機能の学習)

引き続き、交流館で開催された「学びの収穫祭」では、福島市立福島第四小学校、平石小学校、須賀川市立阿武隈小学校、矢吹町立善郷小学校、南会津町立南郷第二小学校、そしていわきからは夏井小学校が参加し、合計6校、総勢220名の児童が参加して、田んぼの学校の活動成果を発表しました。



(学びの収穫祭での成果発表)

各校の発表では、劇やスライドによるものなど、それぞれ趣向を凝らした内容で、見学者も発表者も、楽しみながら参加していました。

この「学びの収穫祭」は、初めての開催でしたが、自分たち以外の田んぼの学校活動を知ることができ、参加した児童たちにとっては貴重な経験となったようです。

11月27日(土)、夏井小学校において、第11回目となる活動として、「収穫

祭」と一年の活動を振り返る「発表会」を開催しました。

はじめに、学習田でとれたもち米を使って、1年生から6年生までの全校児童がもちつきを行いました。つきあがったもちにはPTAが雑煮や、きなこもちなどに調理し、児童たち全員で食べました。

特に多くの活動に携わった5年生は感慨もひとしおといった様子で、一年間の活動の成果に満足していたようです。



(田んぼの学校で収穫した米でもちつき)

引き続き発表会では、「学びの収穫祭」で発表した劇を保護者の前で披露した後、それぞれの児童がこれまでの活動で学んだことや心に残ったことを発表し、今年の活動を締めくくりました。

次回は、今年度最後の活動として、来年度に向けたぼかし肥づくりと、5年生の修了式及び4年生への引継式を開催する予定です。

## 「有機生産者交流会」を開催

11月19日(金)、いわき市泉公民館において、有機生産者など18名が参加して「いわき地方有機生産者交流会」を開催しました。

はじめに、福島県オーガニックコーディネーター 南埜(みなみの)幸信氏から「有機農産物業界の現在と今後」と題して、農業による環境汚染からの転換や予防医学としての食べ物の重要性のほか、流通や小売企業との対等な連携による生命文明型ライフスタイル提供産業への成長などの内容で講演が行われました。

引き続き、双葉農業普及所三浦主任主査から「たい肥等を活用した土づくり」と題して、有機農業での土づくりの重要性が示されました。

参加者たちは、講演を通じて、有機農業の将来展望は消費者への情報提供が重要なポイントとなることを新ためて認識していました。

講演後は、有機生産者交流会が行われ、参加者からは、多くの消費者は有機農産物に対する関心が薄いことやJAS有機認証の難しいことのほか、有機栽培の苦労などについて、意見が交わされていました。



(いわき地方有機生産者交流会)

## 「園芸振興セミナー」を開催 ～いわきブランドの確立をめざして～

11月24日(水)、いわき新舞子ハイツにおいて、「いわき地方園芸振興セミナー」を開催しました。

このセミナーは、「消費者との絆づくりによるいわきブランドの確立」をテーマに、いわき地方の気候を生かした園芸作物の生産・流通による園芸産地拡大を図ることを目的としており、園芸作物生産者を中心に約120名が出席しました。

はじめに、茨城大学農学部教授 塩 光輝氏の基調講演が行われ、「ブランドとは農産物の価値であり、ノーブランドの場合は低価格競争の対象となりやすいことから、いわきの農産物はプライベートブランドをめざすべきである。」と先進事例を織り交ぜながら提言がありました。

引き続き、株式会社マルト 商品本部青

果部野菜課 課長 鈴木 勝男氏から「いわきの園芸産地に求めるもの」と題し、「安全・安心を一番に生産してもらいたい。」「収穫タイミングが早すぎるものは、おいしさの面などで一步足りないことが多いので、売りたい物と産地が供給するものの差をなくすことが消費者に受け入れられるポイントである。」との意見が述べられました。



(園芸振興セミナー「基調講演」)

最後に、JAいわき市ファーマーズ部会 久田 トミ子氏が「部会に参加してからは、買う人の立場になって生産を考えるようになった。」などと事例や目標などの発表が行われました。

参加者は、熱心に聴講し、質疑応答では具体的な質問も多く出され、今後の生産意欲につながるものとなりました。

いわき農林事務所では、園芸品目のブランド化と併せて、加工品の商品化などの6次産業化への取組みを進め、農業所得の向上と地域活性化を促進することとしています。

## 「光あふれる森づくり事業」を実施

11月28日(日)、いわき市田人ふれあい館周辺において、田人の山・光あふれる森づくり事業の「第3回 除間伐木の利活用体験と光の交流会」を実施しました。

この事業は、森林のもつ水源かん養、地球温暖化防止などの多様な機能の維持向上など森林整備の重要性について、森

林の手入れ体験を通じて普及啓蒙を図るとともに都市住民との交流促進を目的として、市民36名が参加し田人林業研究会の協力により、行っているものです。

第3回目となる今回は、第1回目にきのこの植菌を体験したほど木からヒラタケを収穫しましたが、大きく成長した様子に参加者は驚いていました。

次に、木材の利用と加工についての講義を受け、除間伐作業で伐採したヒノキの木10本をクリスマスツリーとして活用する体験を行いました。環境に配慮した消費電力の少ないLEDライトを使用し、参加者が樹木の形に合わせて約4千個のライトを取り付け、クリスマスツリーが出来上がりました。



(間伐材を利用してたクリスマスツリーへ)

夕方にはクリスマスツリーの点灯式を行い、色とりどりのイルミネーションが光り輝き、田人の街並に光をあふれさせていました。



(クリスマスツリーの完成)

また、参加者は、田人町で開催された「たびとほっこり祭」へも参加し、特産品を購入したり、田人地域の文化に触れるなど地元の人々との交流が図られました。

この活動は、今回が最後となりますが、植林から森林の手入れ(除間伐)、発生し

た木の利活用までの作業体験を通じて、森林整備の重要性について理解が一層深まったほか、木材の利用拡大と都市住民と中山間地域住民との交流による地域活性化が期待されます。

なお、この活動で設置したイルミネーションは12月25日までの期間、毎日午後4時から11時まで点灯されますので、是非ごらんください。



## 「6次化ネットワーク先進地視察」を開催

11月29日（月）、いわき地域産業6次化運営会議（事務局：いわき地方振興局・いわき農林事務所・水産事務所）の主催による「いわき地域産業6次化ネットワーク先進地視察」を開催しました。

この先進地視察は、「地域産業6次化」を推進するため、新たな商品開発の参考とするとともに、ネットワーク会員の親睦を深め、会員間の連携を促進することを目的としています。

視察には、「地域産業6次化」に意欲的な農林漁業関係者や商工業関係者など36名が参加しました。

はじめに、会津若松市の福島県県産品加工支援センターを視察し、センターの地域産業6次化に対する支援体制について説明を受けた後、センター内の施設を見学しました。

参加者は、職員の説明に熱心に聞き入り、センターの商品開発に対する支援内容や、設備等について積極的に質問していました。



（福島県県産品加工支援センターでの説明）

次に、喜多方市の(有)峰の雪酒造場で、農商工連携により開発されたミード酒（蜂蜜酒）について、開発から販売に至るまでの経緯や現在の販売状況、今後の展開予定について、説明を受けました。

参加者は、ミード酒を試飲し、とろけるようなおいしさを味わいながら、熱心に説明を聞くとともに、開発・製造・販売に関して、数多くの質疑応答が行われ、商品開発の意欲を高めていました。



（(有)峰の雪酒造場での説明）

最後に、郡山市の県中地方農産物加工アンテナショップ「逸品市場」を視察し、佐藤店長から店舗内の状況や県中地域の地域産業6次化の状況について説明を受けました。



（県中地方農産物加工アンテナショップ「逸品市場」での説明）

帰りのバスの中では、「大変、有意義な視察だった。」「とても参考になった。」などの声が多く聞かれ、参加者相互の親睦も大きく深まったようです。

今後、この視察で、さらなる地域産業6次化の推進につながっていくことが期待されます。



「花き部鉢花品評会」が開催  
されました。

11月30日（火）、いわき市鹿島町の  
いわき市中央卸売市場において、(株)いわ  
き中央生花といわき花き鉢物研究会の共  
催による「第13回いわき市中央卸売市  
場花き部鉢花品評会」が開催されました。

この品評会は、鉢花の一層の需要拡大  
と生産振興を図ることを目的として毎年  
開催されているもので、県内や栃木、茨  
城県など近県からシクラメン、ポインセ  
チア、ラン類など134点が出品されまし  
た。

審査の結果、福島県知事賞に(株)根本園  
芸（南相馬市）のシクラメン、いわき市  
長賞には、(有)平園芸のシクラメンが選定  
されました。



(鉢花品評会の審査状況)

本年は、猛暑の影響でシクラメンの開  
花が遅れ、出展数の減少や品質にバラツ  
キが見られましたが、出品されたものは  
いずれもすばらしく、技術の高さがうか  
がえました。

クリスマス控え、シクラメンやポイン  
セチアの出荷が最盛期となりますが、  
最近では品種改良により色や形が豊富で  
従来とは異なったイメージの花がたくさん  
出回っていますので、花店などで是非  
お楽しみください。



「福島県国際農友会、福島県  
青年農業士会全体研修会」が  
開催されました。

11月30日（火）及び12月1日（水）  
の2日間、いわき市小名浜 みさきプレス  
テージリゾートにおいて、県国際農友会  
会員、県青年農業士、関係機関など58  
名が参加し、「平成22年度（社）福島県  
国際農友会、福島県青年農業士会全体研  
修会」が開催されました。

初日は、つくば市の農業法人みずほ代  
表 長谷川 久夫氏、四倉町 (有)とまとラン  
ドいわき 専務 元木 寛氏の2名による講  
演が行われました。

講演会では、それぞれ「農業の6次  
産業化の取組や消費者との交流等につ  
いて」、「農業者の意識改革と時代を読んだ  
経営展開が重要であること」などの講演  
が行われ、参加者は熱心に聴講するとと  
もに、多くの質疑応答が行われました。



(有)とまとランドいわき元木専務の講演)

2日目は、農事組合法人 いわき菌床椎  
茸組合 理事長 磯上 浩一氏から法人設立  
までの経過や、しいたけの生産状況につ  
いて説明があり、その後はしいたけ栽培  
施設を見学しました。参加者は、大規模  
なしいたけ生産工場の状況に驚いた様子  
で、組合長や社員に様々な質問を行っ  
ていました。

全体研修会により各組織体における農  
業者の交流が図られ充実した研修会とな  
りました。

## いわき農林事務所からのお知らせ

◎ 遠野風土と食文化体験「餅つきと正月飾り作り」

日 時：平成22年12月27日（月） 場 所：いわき市遠野オートキャンプ場

◎ 餅つき大会

日 時：平成23年 1月 1日（土） 場 所：いわきの里鬼ヶ城

◎ 平成23年いわき市中央卸売市場初市式

日 時：平成23年 1月 5日（水） 場 所：いわき市中央卸売市場

◎ 遠野風土と食文化体験「絶品！こんにゃく作り」

日 時：平成23年 1月16日（日） 場 所：いわき市遠野オートキャンプ場

◎ 平成22年度第2回いわき市水田農業推進協議会

日 時：平成23年 1月17日（月） 場 所：JAいわき市本店

※12月8日（水）

「いわき地域産業6次化相談窓口」を設置

いわき地域産業6次化運営会議では、いわき地域の農林漁業者・商工業者の方に対して、地域産業6次化に関する様々な課題に随時適切な対応を行うため、いわき農林事務所（県いわき合同庁舎3階）企画部内に

「いわき地域産業6次化相談窓口」

を設置しました。

どうぞ、お気軽にご相談ください。



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 いわき市平字梅本15番地 Tel (0246)24-6152 Fax (0246)24-6196

(県いわき合同庁舎 3階) URL <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>

E-Mail [iwaki.nourin@pref.fukushima.jp](mailto:iwaki.nourin@pref.fukushima.jp)



[iwaki.nourin@pref.fukushima.jp](mailto:iwaki.nourin@pref.fukushima.jp)